

商品名

水性多用途EX

品名

合成樹脂塗料(水系)

成分

合成樹脂(アクリル)、顔料、サビドメ剤、防カビ剤、水

特長

●サビドメ剤、防カビ剤を配合していますので、サビやカビの発生を防ぎます。
●厚塗りしてもタレにくく、ハケさばきの軽い、たいへん塗りやすい塗料です。
●日光や雨にも強く、ソフトなツヤに仕上がります。

用途

●ドア・戸・窓枠・板べい・ガーデン用品など屋内外の木部や家具・木工品などの木製品
●浴室・居間・台所などのしっくい・モルタル・コンクリート壁・板壁
●コンクリート・ブロック・スレート・各種サイディングなどの外壁やへい
●フェンス・門扉・鉄橋・看板・おもちゃなどの鉄部・鉄製品
●発泡スチロール・アクリル・硬質塩ビなどのプラスチック面
カベ紙、布カベ紙、ユニットバス、浴槽には適しません。熱い水がかかると、水につかるところや、いつも濡れているところ、また床面、テーブル・カウンターの天面には適しません。

塗装方法

①はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
●塗る面のゴミや汚れを取り、カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
●壁にあいた穴などは、あらかじめパテなどで補修しておきます。
②塗料がついて固まる場所は、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③フクレ・ハガレ防止のため、右の下地処理の注意にしたがって下地処理を行います。
④フタをあける前に容器を逆さにしてよく振り動かして塗料をよく混ぜます。フタを開けたら棒などで底まで充分にかき混ぜて塗料を均一にし、必要量を口の広い容器に移します。使用中もときどきかき混ぜます。
●塗料の粘度が高くて塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
●夏期、塗装面が高温となり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合はさらに少しずつうすめて調整します。
⑤コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗り、
●広い面積の部分はローラー・バケ・コテバケ・平バケなどを使うと速く、楽に塗ることが出来ます。
●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水で濯いで洗ってください。

保管上の注意

①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたづらをしないように注意して下さい。
②直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温になるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。
③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。

株式会社 アサヒペン

大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp

お客様相談室 ☎06-6934-0300

日本製 00-1211

プロテクター：プラスチック(PP)
背板・キャップ：スチール

取扱い上の注意

①表示の用途以外に使用しないで下さい。
②体調が悪いとき、アレルギー・化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。
③目に入ったり、皮膚に付着しないよう注意して取扱ってください。付着したまま放置すると、炎症を起こすことがあります。必ず保護手袋を着用して下さい。また、誤飲しないよう注意して下さい。
④使用している原材料の影響で塗装後もしばらくの間は臭気が残ります。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いがなくなるまでは、ときどき換気して下さい。
⑤塗料がついても支障がない程度で作業して下さい。
⑥塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗ってください。
⑦塗るときおおよび塗った塗料が乾くまでの間は、5℃以下にならないような時間に塗ってください。
⑧うすめすぎたり、うすく塗りすぎると、うまく仕上がらない場合があります。
⑨コンクリート・モルタル・しっくいなどのアルカリ性素材の上になると、一時的に臭いが強くなる場合があります。
⑩特殊なサイディングやコーキング材・シーリング材には密着しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして、密着することを確認してから塗ってください。
⑪塗り重ねるときは、夏期2時間以上、冬期6時間以上乾かしてから塗ってください。
⑫浴室に塗るときは換気をよくして、1日以上乾かしてから使用して下さい。
⑬高温になると塗膜がやわらかくなる傾向があります。また、塗膜と塗膜・軟質塩化ビニール・レザー等が強い力で重なり合うと、くっつくことがあります。
⑭塗り塗膜・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
⑮呼吸器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
⑯落下させると、中身が漏れることがあるので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

フクレ・ハガレ防止のため、以下の処理をして下さい。
①つるつるした面は、サンドペーパーで表面を粗らしてから塗ってください。
②旧塗膜を剥がして粉が手につく場合や、木質系および樹脂セメント系のサイディングに塗るときは、必ずアサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
③土壁・砂壁・せいの壁などに塗るときは、アサヒペンカベ塗料用下塗り剤、またはアサヒペン水性シーラーを下塗りして下さい。
④タコ(コ)のヤニやサインペンの汚れの上に塗装しますと塗膜にニジミが出てきますので、中性洗剤で充分に拭きとるか、アサヒペン水性ヤニ・アーク止めシーラーを下塗りして下さい。
⑤くさびの痕など腐蝕・腐食・変色・剥離などの場合は、サビドメ塗料を下塗りして下さい。
⑥新しいコンクリートやモルタル面に塗るときは、施工後1ヶ月以上経ってから行い、アサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
⑦カビがはえている所は、カビトリ剤でカビをとってから塗ってください。

危険

●遺伝性疾患のおそれ
●水生生物に毒性

緊急処置

●目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●鼻につけて飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●吸気、ガスなどを吸い込んだ場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

無鉛塗料

鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積(2回塗り)

40~50㎡ 24~30枚分

乾燥時間

夏期/30分~1時間
冬期/2~3時間

塗り重ね時間の目安

夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

塗りにくいときは水(5%以内)でうすめて下さい

注意書きをよく読んでから使用して下さい。

商品名

水性多用途EX

品名

合成樹脂塗料(水系)

成分

合成樹脂(アクリル)、顔料、サビドメ剤、防カビ剤、水

特長

●サビドメ剤、防カビ剤を配合していますので、サビやカビの発生を防ぎます。
●厚塗りしてもタレにくく、ハケさばきの軽い、たいへん塗りやすい塗料です。
●日光や雨にも強く、ソフトなツヤに仕上がります。

用途

●ドア・戸・窓枠・板べい・ガーデン用品など屋内外の木部や家具・木工品などの木製品
●浴室・居間・台所などのしっくい・モルタル・コンクリート壁・板壁
●コンクリート・ブロック・スレート・各種サイディングなどの外壁やへい
●フェンス・門扉・鉄橋・看板・おもちゃなどの鉄部・鉄製品
●発泡スチロール・アクリル・硬質塩ビなどのプラスチック面
カベ紙、布カベ紙、ユニットバス、浴槽には適しません。熱い水がかかると、水につかるところや、いつも濡れているところ、また床面、テーブル・カウンターの天面には適しません。

塗装方法

①はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
●塗る面のゴミや汚れを取り、カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
●壁にあいた穴などは、あらかじめパテなどで補修しておきます。
②塗料がついて固まる場所は、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③フクレ・ハガレ防止のため、右の下地処理の注意にしたがって下地処理を行います。
④フタをあける前に容器を逆さにしてよく振り動かして塗料をよく混ぜます。フタを開けたら棒などで底まで充分にかき混ぜて塗料を均一にし、必要量を口の広い容器に移します。使用中もときどきかき混ぜます。
●塗料の粘度が高くて塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
●夏期、塗装面が高温となり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合はさらに少しずつうすめて調整します。
⑤コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗り、
●広い面積の部分はローラー・バケ・コテバケ・平バケなどを使うと速く、楽に塗ることが出来ます。
●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水で濯いで洗ってください。

保管上の注意

①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたづらをしないように注意して下さい。
②直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温になるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。
③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。

株式会社 アサヒペン

大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp

お客様相談室 ☎06-6934-0300

日本製 00-1211

プロテクター：プラスチック(PP)
背板・キャップ：スチール

取扱い上の注意

①表示の用途以外に使用しないで下さい。
②体調が悪いとき、アレルギー・化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。
③目に入ったり、皮膚に付着しないよう注意して取扱ってください。付着したまま放置すると、炎症を起こすことがあります。必ず保護手袋を着用して下さい。また、誤飲しないよう注意して下さい。
④使用している原材料の影響で塗装後もしばらくの間は臭気が残ります。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いがなくなるまでは、ときどき換気して下さい。
⑤塗料がついても支障がない程度で作業して下さい。
⑥塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗ってください。
⑦塗るときおおよび塗った塗料が乾くまでの間は、5℃以下にならないような時間に塗ってください。
⑧うすめすぎたり、うすく塗りすぎると、うまく仕上がらない場合があります。
⑨コンクリート・モルタル・しっくいなどのアルカリ性素材の上になると、一時的に臭いが強くなる場合があります。
⑩特殊なサイディングやコーキング材・シーリング材には密着しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして、密着することを確認してから塗ってください。
⑪塗り重ねるときは、夏期2時間以上、冬期6時間以上乾かしてから塗ってください。
⑫浴室に塗るときは換気をよくして、1日以上乾かしてから使用して下さい。
⑬高温になると塗膜がやわらかくなる傾向があります。また、塗膜と塗膜・軟質塩化ビニール・レザー等が強い力で重なり合うと、くっつくことがあります。
⑭塗り塗膜・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
⑮呼吸器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
⑯落下させると、中身が漏れることがあるので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

フクレ・ハガレ防止のため、以下の処理をして下さい。
①つるつるした面は、サンドペーパーで表面を粗らしてから塗ってください。
②旧塗膜を剥がして粉が手につく場合や、木質系および樹脂セメント系のサイディングに塗るときは、必ずアサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
③土壁・砂壁・せいの壁などに塗るときは、アサヒペンカベ塗料用下塗り剤、またはアサヒペン水性シーラーを下塗りして下さい。
④タコ(コ)のヤニやサインペンの汚れの上に塗装しますと塗膜にニジミが出てきますので、中性洗剤で充分に拭きとるか、アサヒペン水性ヤニ・アーク止めシーラーを下塗りして下さい。
⑤くさびの痕など腐蝕・腐食・変色・剥離などの場合は、サビドメ塗料を下塗りして下さい。
⑥新しいコンクリートやモルタル面に塗るときは、施工後1ヶ月以上経ってから行い、アサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
⑦カビがはえている所は、カビトリ剤でカビをとってから塗ってください。

危険

●遺伝性疾患のおそれ
●水生生物に毒性

緊急処置

●目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●鼻につけて飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●吸気、ガスなどを吸い込んだ場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

無鉛塗料

鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積(2回塗り)

40~50㎡ 24~30枚分

乾燥時間

夏期/30分~1時間
冬期/2~3時間

塗り重ね時間の目安

夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

塗りにくいときは水(5%以内)でうすめて下さい

注意書きをよく読んでから使用して下さい。

商品名

水性多用途EX

品名

合成樹脂塗料(水系)

成分

合成樹脂(アクリル)、顔料、サビドメ剤、防カビ剤、水

特長

●サビドメ剤、防カビ剤を配合していますので、サビやカビの発生を防ぎます。
●厚塗りしてもタレにくく、ハケさばきの軽い、たいへん塗りやすい塗料です。
●日光や雨にも強く、ソフトなツヤに仕上がります。

用途

●ドア・戸・窓枠・板べい・ガーデン用品など屋内外の木部や家具・木工品などの木製品
●浴室・居間・台所などのしっくい・モルタル・コンクリート壁・板壁
●コンクリート・ブロック・スレート・各種サイディングなどの外壁やへい
●フェンス・門扉・鉄橋・看板・おもちゃなどの鉄部・鉄製品
●発泡スチロール・アクリル・硬質塩ビなどのプラスチック面
カベ紙、布カベ紙、ユニットバス、浴槽には適しません。熱い水がかかると、水につかるところや、いつも濡れているところ、また床面、テーブル・カウンターの天面には適しません。

塗装方法

①はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
●塗る面のゴミや汚れを取り、カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
●壁にあいた穴などは、あらかじめパテなどで補修しておきます。
②塗料がついて固まる場所は、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③フクレ・ハガレ防止のため、右の下地処理の注意にしたがって下地処理を行います。
④フタをあける前に容器を逆さにしてよく振り動かして塗料をよく混ぜます。フタを開けたら棒などで底まで充分にかき混ぜて塗料を均一にし、必要量を口の広い容器に移します。使用中もときどきかき混ぜます。
●塗料の粘度が高くて塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
●夏期、塗装面が高温となり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合はさらに少しずつうすめて調整します。
⑤コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗り、
●広い面積の部分はローラー・バケ・コテバケ・平バケなどを使うと速く、楽に塗ることが出来ます。
●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水で濯いで洗ってください。

保管上の注意

①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたづらをしないように注意して下さい。
②直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温になるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。
③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。

株式会社 アサヒペン

大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp

お客様相談室 ☎06-6934-0300

日本製 00-1211

プロテクター：プラスチック(PP)
背板・キャップ：スチール

取扱い上の注意

①表示の用途以外に使用しないで下さい。
②体調が悪いとき、アレルギー・化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。
③目に入ったり、皮膚に付着しないよう注意して取扱ってください。付着したまま放置すると、炎症を起こすことがあります。必ず保護手袋を着用して下さい。また、誤飲しないよう注意して下さい。
④使用している原材料の影響で塗装後もしばらくの間は臭気が残ります。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いがなくなるまでは、ときどき換気して下さい。
⑤塗料がついても支障がない程度で作業して下さい。
⑥塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗ってください。
⑦塗るときおおよび塗った塗料が乾くまでの間は、5℃以下にならないような時間に塗ってください。
⑧うすめすぎたり、うすく塗りすぎると、うまく仕上がらない場合があります。
⑨コンクリート・モルタル・しっくいなどのアルカリ性素材の上になると、一時的に臭いが強くなる場合があります。
⑩特殊なサイディングやコーキング材・シーリング材には密着しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして、密着することを確認してから塗ってください。
⑪塗り重ねるときは、夏期2時間以上、冬期6時間以上乾かしてから塗ってください。
⑫浴室に塗るときは換気をよくして、1日以上乾かしてから使用して下さい。
⑬高温になると塗膜がやわらかくなる傾向があります。また、塗膜と塗膜・軟質塩化ビニール・レザー等が強い力で重なり合うと、くっつくことがあります。
⑭塗り塗膜・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
⑮呼吸器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
⑯落下させると、中身が漏れることがあるので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

フクレ・ハガレ防止のため、以下の処理をして下さい。
①つるつるした面は、サンドペーパーで表面を粗らしてから塗ってください。
②旧塗膜を剥がして粉が手につく場合や、木質系および樹脂セメント系のサイディングに塗るときは、必ずアサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
③土壁・砂壁・せいの壁などに塗るときは、アサヒペンカベ塗料用下塗り剤、またはアサヒペン水性シーラーを下塗りして下さい。
④タコ(コ)のヤニやサインペンの汚れの上に塗装しますと塗膜にニジミが出てきますので、中性洗剤で充分に拭きとるか、アサヒペン水性ヤニ・アーク止めシーラーを下塗りして下さい。
⑤くさびの痕など腐蝕・腐食・変色・剥離などの場合は、サビドメ塗料を下塗りして下さい。
⑥新しいコンクリートやモルタル面に塗るときは、施工後1ヶ月以上経ってから行い、アサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
⑦カビがはえている所は、カビトリ剤でカビをとってから塗ってください。

危険

●遺伝性疾患のおそれ
●水生生物に毒性

緊急処置

●目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●鼻につけて飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●吸気、ガスなどを吸い込んだ場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

無鉛塗料

鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積(2回塗り)

40~50㎡ 24~30枚分

乾燥時間

夏期/30分~1時間
冬期/2~3時間

塗り重ね時間の目安

夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

塗りにくいときは水(5%以内)でうすめて下さい

注意書きをよく読んでから使用して下さい。

商品名

水性多用途EX

品名

合成樹脂塗料(水系)

成分

合成樹脂(アクリル)、顔料、サビドメ剤、防カビ剤、水

特長

●サビドメ剤、防カビ剤を配合していますので、サビやカビの発生を防ぎます。
●厚塗りしてもタレにくく、ハケさばきの軽い、たいへん塗りやすい塗料です。
●日光や雨にも強く、ソフトなツヤに仕上がります。

用途

●ドア・戸・窓枠・板べい・ガーデン用品など屋内外の木部や家具・木工品などの木製品
●浴室・居間・台所などのしっくい・モルタル・コンクリート壁・板壁
●コンクリート・ブロック・スレート・各種サイディングなどの外壁やへい
●フェンス・門扉・鉄橋・看板・おもちゃなどの鉄部・鉄製品
●発泡スチロール・アクリル・硬質塩ビなどのプラスチック面
カベ紙、布カベ紙、ユニットバス、浴槽には適しません。熱い水がかかると、水につかるところや、いつも濡れているところ、また床面、テーブル・カウンターの天面には適しません。

塗装方法

①はがれかかった古い塗膜やサビは、皮スキ・ワイヤーブラシ・サンドペーパーなどを使用して充分に取り除きます。
●塗る面のゴミや汚れを取り、カビはカビトリ剤で、油分はペイントうすめ液で拭いてよく落とします。
●壁にあいた穴などは、あらかじめパテなどで補修しておきます。
②塗料がついて固まる場所は、あらかじめマスキングテープなどでおおいます。
③フクレ・ハガレ防止のため、右の下地処理の注意にしたがって下地処理を行います。
④フタをあける前に容器を逆さにしてよく振り動かして塗料をよく混ぜます。フタを開けたら棒などで底まで充分にかき混ぜて塗料を均一にし、必要量を口の広い容器に移します。使用中もときどきかき混ぜます。
●塗料の粘度が高くて塗りにくいときは、水で少し(5%以内)うすめます。
●夏期、塗装面が高温となり、乾燥が速すぎて塗りにくい場合はさらに少しずつうすめて調整します。
⑤コーナーや塗りにくいところは先にすじかいバケで塗り、
●広い面積の部分はローラー・バケ・コテバケ・平バケなどを使うと速く、楽に塗ることが出来ます。
●マスキングテープは、塗料が手につかなくなったらはがします。

用具の手入れ方法

塗料が乾かないうちに、水で濯いで洗ってください。

保管上の注意

①幼児の手が届かないところに保存し、子供が誤飲・誤食・いたづらをしないように注意して下さい。
②直射日光や火気のある場所、-5℃以下になるところ、自動車内などの高温になるところ、容器がさびやすいところには置かないで下さい。
③残った塗料はしっかりとフタをしめて保管し、できるだけ早く使い切ってください。

株式会社 アサヒペン

大阪市鶴見区鶴見4-1-12
http://www.asahipen.jp

お客様相談室 ☎06-6934-0300

日本製 00-1211

プロテクター：プラスチック(PP)
背板・キャップ：スチール

取扱い上の注意

①表示の用途以外に使用しないで下さい。
②体調が悪いとき、アレルギー・化学物質に敏感な人は使用しないで下さい。
③目に入ったり、皮膚に付着しないよう注意して取扱ってください。付着したまま放置すると、炎症を起こすことがあります。必ず保護手袋を着用して下さい。また、誤飲しないよう注意して下さい。
④使用している原材料の影響で塗装後もしばらくの間は臭気が残ります。塗装中、乾燥中とも換気をよくし、その後も塗料の臭いがなくなるまでは、ときどき換気して下さい。
⑤塗料がついても支障がない程度で作業して下さい。
⑥塗装は雨の降りそうな日や湿度の高い日は避け、天気の良い日に塗ってください。
⑦塗るときおおよび塗った塗料が乾くまでの間は、5℃以下にならないような時間に塗ってください。
⑧うすめすぎたり、うすく塗りすぎると、うまく仕上がらない場合があります。
⑨コンクリート・モルタル・しっくいなどのアルカリ性素材の上になると、一時的に臭いが強くなる場合があります。
⑩特殊なサイディングやコーキング材・シーリング材には密着しないものがあります。目立たない部分で試し塗りをして、密着することを確認してから塗ってください。
⑪塗り重ねるときは、夏期2時間以上、冬期6時間以上乾かしてから塗ってください。
⑫浴室に塗るときは換気をよくして、1日以上乾かしてから使用して下さい。
⑬高温になると塗膜がやわらかくなる傾向があります。また、塗膜と塗膜・軟質塩化ビニール・レザー等が強い力で重なり合うと、くっつくことがあります。
⑭塗り塗膜・乾燥時間は、色・素材・塗り方・気象条件などにより多少異なります。
⑮呼吸器は塗料を使い切ってから捨てて下さい。やむをえず塗料を捨てるときは、水性塗料用固化剤で固化するか、新聞紙などに塗り広げ、完全に乾かしてから一般ゴミとして処分して下さい。
⑯落下させると、中身が漏れることがあるので取扱いに注意して下さい。

下地処理の注意

フクレ・ハガレ防止のため、以下の処理をして下さい。
①つるつるした面は、サンドペーパーで表面を粗らしてから塗ってください。
②旧塗膜を剥がして粉が手につく場合や、木質系および樹脂セメント系のサイディングに塗るときは、必ずアサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
③土壁・砂壁・せいの壁などに塗るときは、アサヒペンカベ塗料用下塗り剤、またはアサヒペン水性シーラーを下塗りして下さい。
④タコ(コ)のヤニやサインペンの汚れの上に塗装しますと塗膜にニジミが出てきますので、中性洗剤で充分に拭きとるか、アサヒペン水性ヤニ・アーク止めシーラーを下塗りして下さい。
⑤くさびの痕など腐蝕・腐食・変色・剥離などの場合は、サビドメ塗料を下塗りして下さい。
⑥新しいコンクリートやモルタル面に塗るときは、施工後1ヶ月以上経ってから行い、アサヒペン油性シーラー、またはアサヒペン強溶剤水性シーラーを下塗りして下さい。
⑦カビがはえている所は、カビトリ剤でカビをとってから塗ってください。

危険

●遺伝性疾患のおそれ
●水生生物に毒性

緊急処置

●目に入ったときは、直ちに多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●鼻につけて飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
●吸気、ガスなどを吸い込んだ場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けて下さい。
●皮膚に付着した場合には、多量の石鹸水で洗い落とし、痛み又は外観に変化のあるときは、医師の診察を受けて下さい。

無鉛塗料

鉛・クロム化合物は使用していません。

標準塗り面積(2回塗り)

40~50㎡ 24~30枚分

乾燥時間

夏期/30分~1時間
冬期/2~3時間

塗り重ね時間の目安

夏期/2時間以上
冬期/6時間以上

塗りにくいときは水(5%以内)でうすめて下さい

注意書きをよく読んでから使用して下さい。